

**平成21年度第3回（第10回）幸町地区学校適正配置地元代表協議会  
「幸町1丁目分科会」議事要旨**

**1 日 時** 平成21年9月5日（土） 13時～15時

**2 場 所** ガーデントاون管理センター

**3 出席者**

- (1) 委 員 7人      \*欠席：齋藤委員
- (2) 事務局 古舘主幹、加茂主査、伊藤主査補
- (3) 傍 聴 9人

**4 議題**

- (1) 幸町1丁目の方向性について

**5 会議資料**

- (1) 平成21年度に算出した推計による幸町地区の状況（7月24日修正版）
- (2) 平成21年度に算出した推計による幸町地区の状況（追加資料）
- (3) 平成21年度第2回（第9回）幸町地区学校適正配置地元代表協議会「幸町2丁目分科会」議事要旨

**6 協議の概要**

**(1) 幸町1丁目の方向性について**

資料（1）（2）の児童生徒数の推計やシミュレーション及び幸町2丁目分科会の状況報告をもとに、幸町地区の学校適正配置の方向性について協議された。

幸町1丁目の意見として、中学校2校については当面そのままとし、その上で小学校の統合について協議すること、また統合の際には、小中一貫教育も視野に入れた検討が必要であることが確認された。

また、次回は、幸町地区地元代表協議会「全体会」を平成21年10月22日（木）午後7時より、ガーデントاون管理センターにて開催することが確認された。

**7 発言要旨**

**(1) 会長挨拶**

これまでに幸町地区学校適正配置地元代表協議会「幸町2丁目分科会」を2回行い、協議を進めてきた。本日は「1丁目分科会」を開催させていただき協議することとなった。次回行われる全体会には、それぞれの分科会の協議を反映させていきたい。

いずれにしても、今年度中には、見通しをつけたいと考えているので、よろしく願いしたい。

## (2) 協議

### 議題 幸町1丁目の方向性について

<事務局>

※まず、資料「平成21年度第2回(第9回)幸町地区学校適正配置地元代表協議会『幸町2丁目分科会』議事要旨をもとに、状況が報告された。

また、「平成21年度に算出した推計による幸町地区の状況(7月24日修正版)」及び「平成21年度に算出した推計による幸町地区の状況(追加資料)」をもとに、幸町地区の児童生徒数・学級数の推移と統合した場合のシミュレーションの説明があった。幸町第一小学校は今後も児童数・学級数ともにほぼ横ばいの状況であること、幸町第二小学校は減っていく傾向にあること、幸町第三小学校は昨年度の推計より児童数が減り、大規模校化がやや落ち着く傾向がみられること、幸町第四小学校は昨年度の推計より児童数の減少が激しく、かなり深刻な状況であることが報告された。

中学校については、ほぼ昨年度の推計どおりに推移していくことが報告された。

<亀田議長>

本日の午前中に開催された青少年育成委員会でも簡単に報告したが、さらに詳しく報告してもらった。何か質問があれば願います。

<西重委員>

議事録を見て驚くことがある。例えば、「統合の条件として中央区を学区から外す」ということである。これは保護者全員が考えていることではないということだが、それでよいか。

<事務局>

あくまでPTAの合同部会の中で出た話題ということなので、保護者全体の考えであるかどうかはわからない。

<西重委員>

「中央区を外す」というのは、パトロールだけが理由なのか。1丁目としては、中央区の住民の方と夏祭りを一緒に行うなど、つながりを持とうと努力している。

<事務局>

学校適正配置の目的として、地域コミュニティとの整合を図ることは基本的な考え方の一つである。しかし、現状で、幸町地区の学校に通学する中央区を学区から外すことは困難であることは、「2丁目分科会」でもお答えした。2丁目の方たちがどのように考えているのかは、長岡会長より説明していただいた方がよいと思う。

<長岡委員>

やはり矛盾は見直すべきだと考えている。現在、千葉港の子どもたちが幸町第三小学校に通学し、より遠い中央港の子どもたちが登戸小学校に通学している。すぐに変えることは無理でも、そういったことも含めて千葉市全体で学校の配置について見直すべきだと考えている。

<西重委員>

もう一点、今年度、幸町第二中学校と第三小学校とで小中連携教育の研究を行っている。(小中連携教育を発展させた)小中一貫教育と学校適正配置とは、理念として別だとは思いますが、実際には並列に考えていくべきだと思う。1丁目の子どもたちのためにどうすればよいのかを考えたい。

<亀田議長>

小中連携教育の研究については、もし要望があれば幸町第一中学校と第四小学校とで行うことも可能だと聞いている。

<事務局>

小中一貫教育については、千葉市では未だ研究段階である。小中連携教育の研究成果は、先々小中一貫教育につながることはなるだろう。1丁目の方から、「第二中と第三小とで小中一貫教育校にしたい」という要望が出ることも当然であろうが、まだその段階には来ていない。

<西重委員>

第三小学校は敷地、校舎、グラウンドが子どもたちの数に対して小さい。第三小学校の大規模化を緩和するためには、小中一貫教育校の設置も一つの選択肢であると考えている。小学生が中学校の校庭を利用するなど、メリットもあると思う。

<亀田議長>

2丁目分科会についての質問はないか。

<阿部委員>

なぜ、一中区の方は全保護者に対してアンケート調査等を行わないのか不思議である。一番大切な保護者の意見をなぜ吸い上げないのか。

<亀田議長>

第二中学校と第三小学校では全保護者に対してアンケート調査を行っているが、第一中学校では役員レベルでしか話していないようである。

<蟹江委員>

先程西重委員が言われたことはもっともである。前回の2丁目分科会の「中央区を外す」という提案は、1丁目の住民からすれば心外であった。1丁目が呑めないような条件を提示しては統合などできない。それならば、当面は中学校の統合はせずに、小学校の統合を検討すべきという流れになったと思う。その中で、幸町第二小学校については、第二中学校に通学したいという希望があるので、それを考慮したいということであった。

二つの中学校を残すということをスタートラインにして、協議を進めたらどうか。

<亀田議長>

前回の分科会で、1学級当たり子どもたちの人数についての資料がほしいと提案した。追加資料について説明願いたい。

<事務局>

資料「平成21年度に算出した推計による幸町地区の状況（追加資料）」をご覧いただきたい。第三小学校だけでなく、幸町地区の全学校について整理してみた。まず、小規模校だと1学級当たりの人数は少ないとは必ずしも言えない。人数の微妙な状況により、35人ほどで1学級という場合もあれば、20人ずつで2学級という場合もある。しかし、学級数が増えれば、1学級当たりの人数は多くなりがちであることは確かであり、第三小学校は他の3つの小学校よりも学級数が多いため、1学級当たりの人数も多くなっている状況はある。

<亀田議長>

それでは、協議に移る。

<長田委員>

議事録を読むと、2丁目分科会では様々な意見が出され、その中には受け入れがたい意見もあり、これからさらに協議が必要と感じた。

中学生の成長段階、部活動の充実等を考えれば、子どもの数の推移も見ながらだが、将来的には中学校1校でも良いのではと考える。しかし、今年度始まったばかりの三小の小中連携教育の研究（結果はどう出るかわからないが）や、地域コミュニティーのまとまりなどを考えると、今の段階では、中学校2校を残すというのが妥当と考える。将来を見据えて、段階的に行っていった良いのではないかと思う。

<赤田委員>

昨年度アンケート調査を行ったので、その結果を述べる。

- ・中学校の統合については、「いいえ」が42%、「どちらともいえない」が40%で、約80%の保護者は前向きではない。
- ・小学校の統合は必要かどうかに対して、「はい」が60%、「いいえ」が10%、「どちらともいえない」が30%であった。
- ・小学校の統合のパターンについては、「一小・二小・四小の統合」が60%、「一小と四小、二小・三小の統合」が25%、「どちらでもよい」が10%、その他5%であった。
- ・中学校の統合校の位置については、「二中の位置」が60%、「一中の位置」が4%、「どちらでもよい」が21%、その他が15%であった。

<阿部委員>

この協議会前に、本部役員で話し合いをした。第三小学校は統廃合はないという意識が強いので、小学校の統廃合については他の3校で話し合い、子どもたちのためにもより良い方向に進めてほしいという意見だった。また、今年1月に全保護者にアンケート調査を実施し、その集計結果を保護者と昨年度の協議会委員にも配布しているが、それを参考までにご覧いただきたい。

※主な内容

- ・小学校の統合は行った方がよいに対しては、「はい」が62%、「いいえ」が11%であった。
- ・中学校の統合は行った方がよいかに対しては、「はい」が22%、「いいえ」が47%であった。
- ・小学校の統合に「はい」と答えた方のうち、「一小・二小・四小の統合に賛成」と答えた方は62%であった。
- ・中学校の統合に「はい」と答えた方のうち、「第二中学校の位置に統合中学校を設置してほしい」という方は60%であった。

<亀田議長>

今の意見を聞くと、中学校の統合については同意が少ないように思う。第三小学校の保護者も、中学校は今のままでよいと解釈してよいか。それならば、1丁目としては中学校を2校残すと結論付けてもよいと考えるのだが。

<西重委員>

2丁目にて提案している「中学校を統合するならば、中央区を外す」ということが前提になれば、中学校の統合に反対する保護者はさらに増えるのではないかと。

<阿部委員>

私は中央区在住だが、この提案については良い気はしないし、他の住民も到底納得しないだろう。

<事務局>

現段階の周囲の学校の状況からすると、中央区を外すことは困難である。このことは事務局の答えとして議事録にも残っている。第一中学校の関係者の方からは、新しい学校をつくる等の提案は出ている。

<亀田議長>

2丁目分科会では、教育委員会の失策を指摘していたが、問屋町にマンションが建つということなどは教育委員会としても把握しきれなかっただろう。数年前、建設省が滞っている様々な建設計画の見直しについて、市の会議にボランティア連絡会の会長として出席したことがある。その当時、問屋町と千葉みなと駅の海側は住宅地とする計画ではなかった。バブルがはじけた後に市が住宅建設を許可した経緯がある。そういった中での「中央区を外す」という発言であるが、現状で中央区をはずすことは難しいと思う。

<蟹江委員>

中央区千葉港は、第二の幕張メッセにするという構想があったと思う。どちらかということ、教育委員会の失策ではなく、行政の都合により生じた結果だろう。千葉港の子どもたちのことを考えれば、その子どもたちを第三小学校に通学させるのは当然だと思う。中央区を外せば、統合はできないだろう。地域として考えれば、1丁目、2丁目にそれぞれ中学校1校、小学校1校でもよい。第四小学校の子どもたちのことを考えれば、2丁目にある3校は早く統合を検討した方がよいだろう。

<長田委員>

幸町地区に中学校2校、小学校2校になるのはよいが、一番気になるのは第二小学校の立場である。第一・第二・第四小学校が統合された場合の第二小学校の子どもたちへの柔軟な対応は、期間を限定したものなのか、その後も続けることもできるのか。

<事務局>

千葉市は学区制を取っているが、学区変更に伴う子どもたちのための柔軟な対応は、行っている。ただし、基本的には統合時の在校生のみへの対応になるだろう。また、仮に統合しても第二小学校出身の子どもたちは従前どおり第二中学校に通学するということも考えられる。その場合は、第一中学校は小規模校の状況が続くことになり、課題が残ることになる。

<亀田議長>

柔軟な対応とは、統合時の小学校1年生が中学校に進学するまでの6年間と考えてよいか。

<事務局>

そうである。統合時の在校生について認めることとなる。

<長岡委員>

2丁目の住民の考えとしては、街づくりの観点からみて「街としてのまとまり」がほしいということである。第1次の学校適正配置の際には、第一小学校と第四小学校との統合しか提案されなかったのが、まとまらなかった。今回の第一・第二・第四小学校を統合するというのはいったい意味も含んでいる。「街」は、学校や保護者だけで成り立っているわけではない。青少年育成団体、民生等の福祉団体等、様々な団体が関わり合っている。子どもたちの教育環境もその上に成り立っているということをご理解いただきたい。

<西重委員>

それはもっともな意見である。子どもたちのことを考えて統廃合を考えるべきという意見はもちろんだが、今はPTAにC（コミュニティー）を加えて子どもたちの教育環境を作っていく必要がある。地域に振り回されず、しかし子どもたちのためによい環境を作っていくことの難しさを感じる。

<長岡委員>

第二小学校の子どもたちや保護者は、市の考え方に翻弄されてきた経緯がある。自分は第2次千葉市学校適正配置検討委員会にもかかわってきたが、なぜ問屋町にマンション建設を許してしまったのか、学校適正配置にしても千葉港と中央港の子どもたちがクロスして通学しているのか、そういったことを歯がゆく思っている。

<亀田議長>

1丁目の方向性としては、中学校2校を残して、小学校の統合は2丁目の方で検討してもらうという結論になりそうだが、中学校の2校を残すのは、いつくらいまでになるのだろうか。

<西重委員>

その判断は難しい。

<長岡委員>

「当面、1丁目と2丁目にそれぞれ中学校を残す」ということでよいのではないか。

<亀田議長>

他に意見はないか。

<阿部委員>

協議の中で「少人数学級の方がよい」という意見が出ているが、そうすると第三小学校の子どもたちの学力等は低いということか。

<事務局>

どのような指導形態が効果的かということであり、学力とは切り離して考えるべき問題であろう。例えば、計算や読み書き等の反復を要する学習については、少人数の方が効果はあがる。一方、思考を深める討論やボール運動、合唱等は、集団が大きい方が効果はあがる。学校適正配置の目的は、それぞれのよさを生かした効果的な学習を行える規模にしていきたいということである。また、学力はペーパーテスト等、数値ではかれるものがすべてではない。人とのかかわり方や規範意識等、子どもたちの将来に生きる力も学力に含まれると考える。そういった学力は、多くの人とのかかわり、集団のエネルギーの中で育まれていくものだろう。

<阿部委員>

現在、第三小学校では、学校の敷地面積と児童数とが適合していないと感じる。運動会では保護者は立ち見であり、就学前児レースはなくなった。学級によっては、担任と補助教員がいても、対応しきれない状況も生じている。この協議を機会に、第三小学校へも何らかの援助を考えてほしい。

<事務局>

現在、教育委員会として、それぞれの学校に対するできる限りの支援は行っているし、これからも行っていきたい。今回の教員等の加配は、統合という大きな変化に対する支援であることをご理解いただきたい。

<蟹江委員>

第三小学校の問題は、統合以外の様々な問題を話し合う懇談会のようなものを立ち上げて、協議してはどうか。

<事務局>

各学校の学校長は、そういった問題を一番理解しており、教育委員会へも要望をあげている。学校現場の最高責任者である学校長に話していただくことが一番良いと考える。

<亀田議長>

協議の結果として、「中学校2校については当面そのままとし、その上で小学校の統合について協議すること」、そして、西重委員からあった「小中連携教育についても検討していく」ということも付け加えたい。また、もし小学校を統合した場合でも、「統合校が開校した時点で在学する第二小学校の子どもたちは、第二中学校への通学を認める」ということを確認したい。このことをふまえ、第二小学校でも検討してほしい。

なお、次回の幸町地区地元代表協議会は、10月22日（木）19時～21時、ガーデンタウン管理センターで全体会として開催する。第二中学校、第三小学校の代表の方は、今日の協議を持ち帰り、次回協議会に向けて意見をまとめてきてほしい。

他になければ、これで議事をすべて終了とする。

<蟹江委員>

亀田議長、ご苦労さまでした。

### **(3) 諸連絡**

<事務局>

- ・本日の議事録については、委員の方に確認してもらうとともに幸町2丁目の委員にも参考までに送付する。
- ・協議会委員については、代理の方を立てることも可能なので、そういった場合には事務局にご連絡いただきたい。

### **(4) 閉会**

<長岡会長>

全体会では、1丁目の方たちの考えが出づらいうちに思っていた。2丁目の方も次第に落ち着くべきところが見えてきている。やはり時間をかけて話し合っていくべき問題だろう。こういった機会を大切にして、地域や子どもたちのために発言していければと思う。

本日はご苦労様でした。